

税制調査会（第20回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成27年 9月18日（金）16時25分～

場 所：財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

○記者

今日の議論の受け止めに率直にお伺いします。

○中里会長

皆様もお聞きになられたと思いますが、今日は議論の一つとして国際比較という視点が出てきました。その中で筒井教授は、我が国において女性の働き方が男性的なものになっていると話されました。確かにそうなのかもしれません。そのことにより制約が生じているということ。それから、労働力参加と出生率の向上が一定の条件の下両立し得るのではないか。これもなかなか興味深かったです。さらに、釜野室長から女性のライフコースの理想と、実際にどのようなコースを歩むかという予想のギャップを埋めるためにはどのようにしたら良いかということがありましたが、確かに余りそのような方向性を考えたことがなかったため、非常に勉強になります。

今まで本当に様々な方にいらしていただきましたが、ライフコースの多様化という現実が、私たちが漠然とイメージしていたよりもさらに本格的にと言いますか、深く進行していることがとてもよく分かったということで、今日のお二人のプレゼンテーションは非常にインパクトがあって良かったと思っています。

○記者

国際比較の部分の話ですが、北欧、アメリカ、日本と色々あったと思いますが、マクロで言うとあのような説明なのかもしれませんが、ミクロで見るとそれぞれ家庭環境など、様々な要件があると思います。その中で税制が果たせる役割は、中里会長はどのようにお考えになれますか。

○中里会長

次回までの9回は実像把握のセッションです。課税というものは社会的、経済的状況があって、その状況に合わせて公平かつ効率的に仕組んでいくものです。したがって、まず実像を把握して、その後で課税ということになりますから、課税に関してどのような方向にするというのは、次の段階ということになります。しかし、様々な問題点が浮かび上がってきたことを見ると、このような方向が良いのではないかとか、働いている若い子育てをしている方々に光を当てるといった方向ではこのようなことがあり得るのではないかなど、税制という次のステップに行きやすくなったような気がします。

○記者

進め方の話ですが、来週、課題を共有するということを会長はおっしゃいましたが、課題の共有というものは、これまで指摘された論点を整理するのか。それとも今後の

議論の方向性と言いますか、どのような税で対応するのかなど、そのようなところまで踏み込むものなのか。どのようなものを想定されているのでしょうか。

○中里会長

今回は厚生労働省の方に来ていただいて御説明を受けるとともに、今、おっしゃったようなことを行うわけですが、そこは論点の整理ということまで深く入り込んだ話ではなくて、どのようなことが話されたのかを復習してみて、次々回以降の税制の議論につなげたいという復習の時間としてイメージしています。ただし、税制調査会の議論の場合、委員の方々は、皆様非常に活発に議論なさいますから、その場になってみるとさらにもっと行くかもしれませんから、それは楽しみということです。

○記者

本日も委員の方々から様々な御意見が出たかと思いますが、特に今日の議論を見て、委員の方々での今後目指すべき方向性が同じ方向でまとまっていけそうなのかどうかという感触や、今日出た委員の方の御意見の中で特に印象的なものなどがありましたら教えていただけますか。

○中里会長

特にこの意見が印象的であったというものは、私が言っても仕方がない話で、それはむしろ私の判断というよりも、皆様がこれは興味深かったなど、プレスの方々がどのように報道なさるか。あるいは議事録が出た段階で国民の方々がどのような判断をなさるかなど、そちらの方がより重要であると思います。私も一人の視聴者というのをおかしいですが、今の段階では聞いていた人間の一人に過ぎない。そのように思います。

ただし、諮問会議で若い世代、子育てをしている世代に光を当てるという表現が使われていて、その我々に対する諮問のあり方がとても良かったのではないかと私が言うこともなんですが、非常に良いポイントを提出していただいて、それをキーにして実像把握に努め、何となく将来の方向に行けるという感じがしてきましたから。100%意見が一致するかどうか分かりませんが、もしかするとその方向で建設的な提言ができるのかもしれないと今、希望と言いますか、期待しているところです。

○記者

次回、一応実像把握のセッションが最終回で、先ほどこれまでの復習をするような形の議論もするとおっしゃいましたが、計9回行うことになりましたが、次回復習する場合に先ほど若者に光を当てるという方向性が間違っていなかったといったニュアンスの話をされましたが、振り返るときに稼ぎ方や世代間の公平性など様々論点はあると思いますが、会長から見て今回の議論を総括するとき視点として、漠然とした質問で恐縮ですが、どのようなくくり方で振り返られるのか。幾つかの視点を教えていただけたらと思います。

○中里会長

もう少し時間をかけて様々整理してみたいとは思いますが、今の時点で一つ二つ言えることとして、まず、従来の議論では、年齢による輪切りが結構されていました。それはそれで別に間違っていたわけではないのですが、高齢者の負担や、若い方の負担など、今回の実像把握でよく分かったことは、若い人も様々であり、高齢者と言っても様々であるということがデータとともに非常に説得的に、皆様もそうであると思いますが、我々の頭の中に入ってきたということ。これは税制の議論をしていく際に大きいかどうか分かりませんが、それなりの方向性になると思います。

もう一つは、これまでの議論は給与所得者と自営業者という世の中にはこの二つしかないような形の議論でした。また、そのような感じで実際の税制ができているということもありますが、どうも世の中を見てみると様々な働き方があり、新しくそれが拡大もしている。今後さらに多様なものが出てくる可能性があるとするれば、それに合わせてどのようにして税制を考えていったら良いのか。従来の枠組みから解放されたと言いますか、少し異なった視点で物事を見るということが委員の方々全員の中でそれは共有されたと思います。

ほかにも様々あると思いますが、その二つだけでも、非常にインパクトがあったのではないかと考えています。

このような言い方もなんですが、皆様もそのようなものは記事が書きやすいのではないのでしょうか。国民の皆様にお伝えするときにインパクトがございますね。それは事実ですから、これはよかったのではないかと考えています。

○記者

今、話された年齢の輪切りの話あるいは給与所得者と自営業者のこれまでの区分けというものを改めて見直していく。そのときに、これから実像セッションが終わって、個別具体的な議論に行くときに、例えば公的年金等控除や各種の小さな控除のところに我々も目が行きがちなところがありますが、どのような議論の持っていく方を実像セッション以降に、今、おっしゃった二つの大きな視点があると思うのですが、議論を進める方向になるのでしょうか。

○中里会長

実像把握で世の中の社会的な状況、家族の状況、経済的な状況というものがそれなりに正確に頭に入ってきた。次に、そこから生ずる租税制度の仕組み方の問題として、実像把握を前提とすると、どのような問題点と言いますか、論点が浮かび上がってくるかということを議論していくわけです。その先に具体的な提言がいつまでにどこまでできるかは分かりませんが、そのような順番に、ステップごとになっていくと思います。まず実像を把握し、それを前提として税制上の論点を押さえ、さらに将来の方向性を検討するという三つになっていくと思うのです。今のような流れの中で考えていくと、配偶者控除なら配偶者控除云々という特定のものだけ取り上げて、それを議論するという方向にはならないということ。もっと全体的に考えていくということ。

とりあえずはこここのところでは。したがって、余り特定のことだけ取り上げてという意識で皆様いらっしやらないように本当になったと思います。最初は大言壮語のように聞こえたかもしれませんが、世の中の実情を見てみると、そうなのかもしれないなと委員の方々も、あるいはプレスの方々もお思いになってこられたということ。これは良かったと思っています。

○記者

ありがとうございました。

○中里会長

どうもお世話になりました。ありがとうございました。

[閉会]